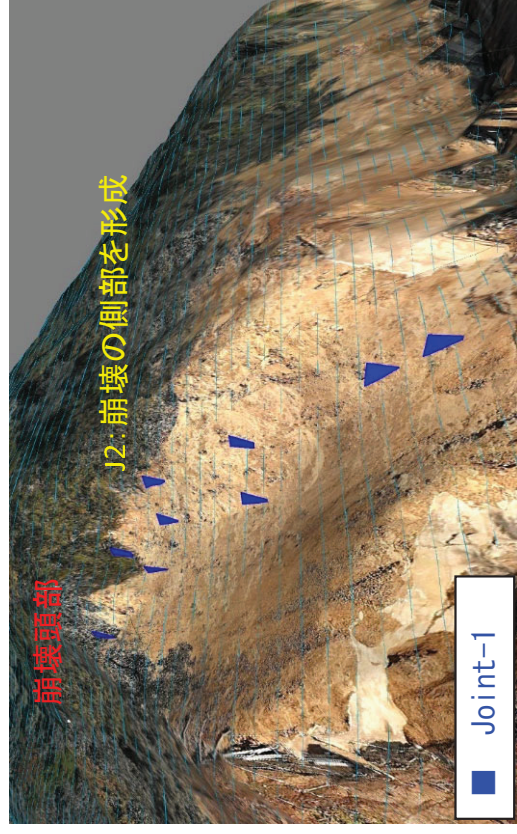
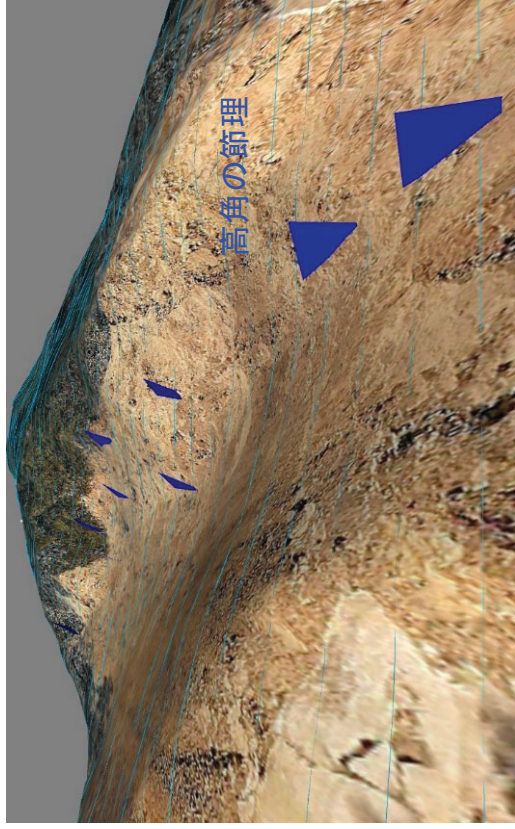


3. 1(1) 現地踏査結果(地質構造解析)



Joint-1 (J1): N75W78SW

◆ 0.2~0.6m間隔で発達

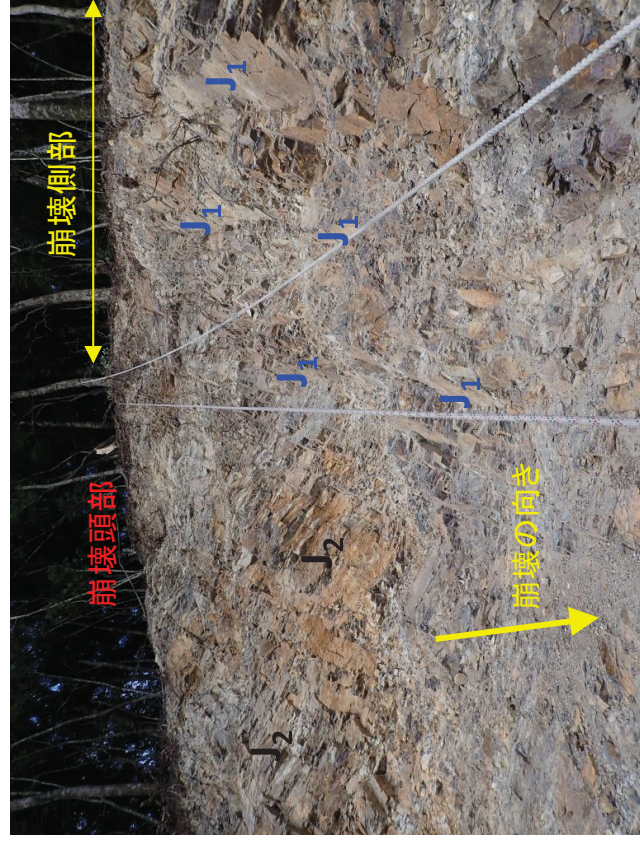
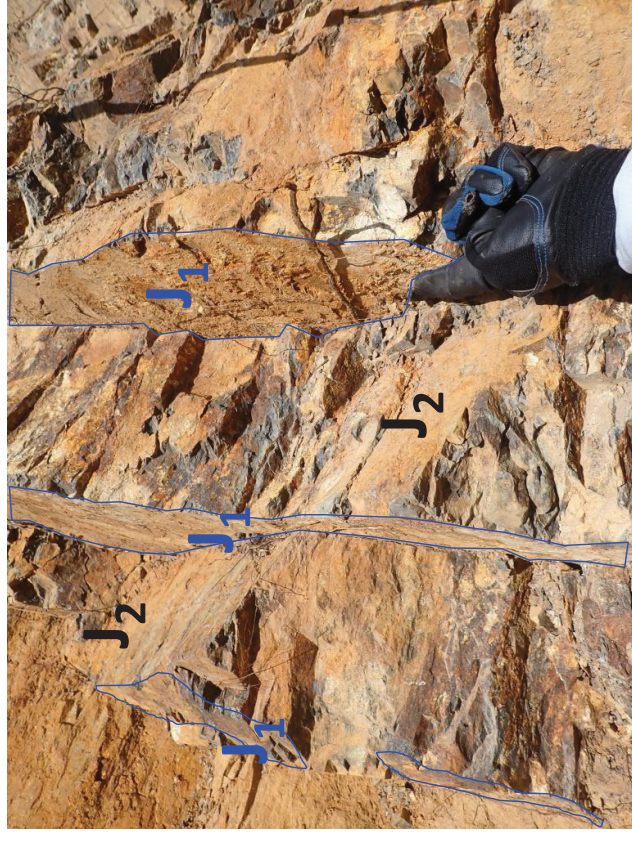
◆ 縦目の高角節理

◆ 節理面はシャープ(平滑)

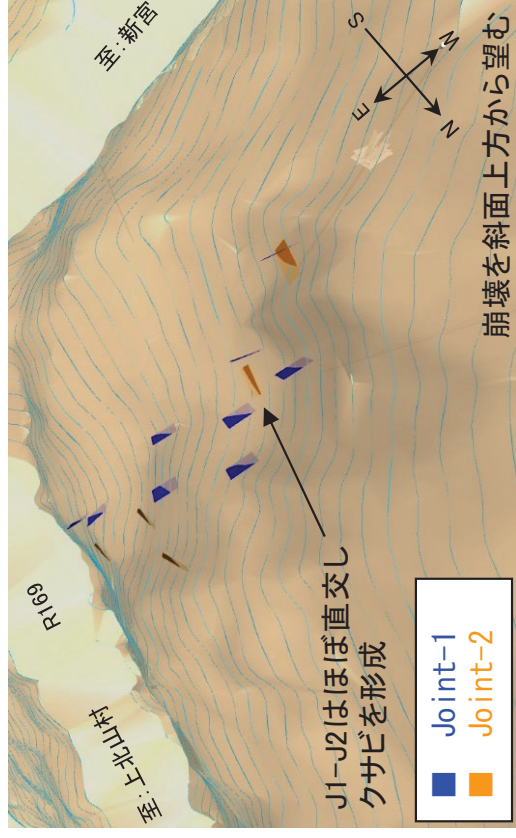
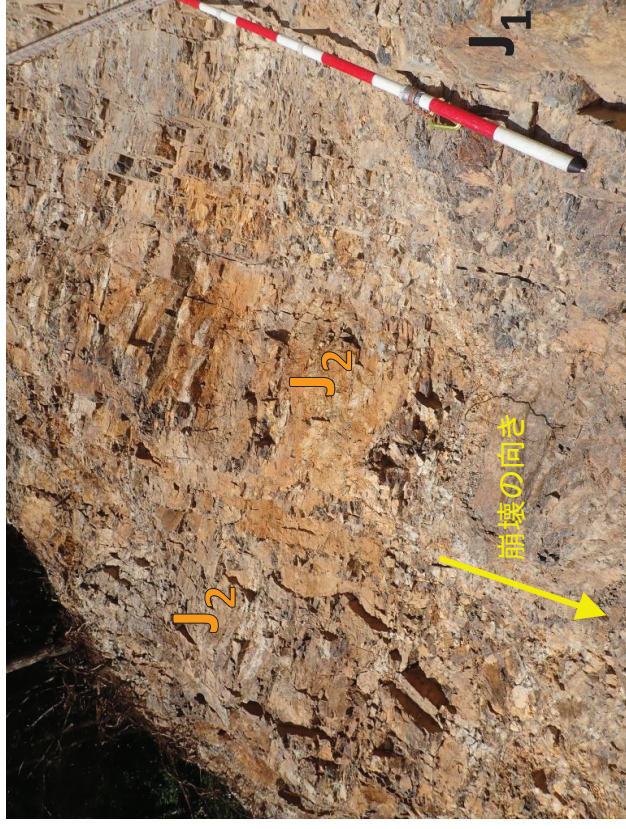
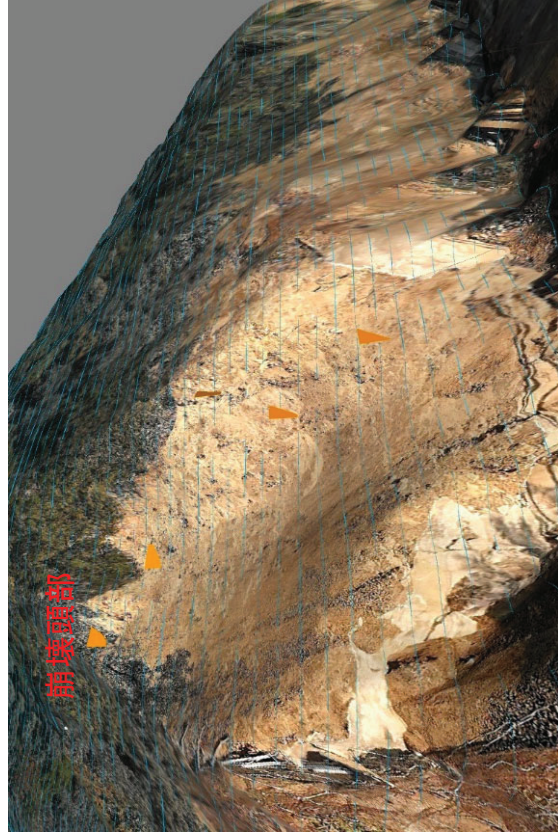
◆ 褐色酸化が認められるが、細粒分の付着は微量

◆ Joint-2(J2)とほぼ直交し、節理に規制された柱状岩盤を形成する。

◆ 崩壊発生時には側方分離面となったものと推定される。



3. 1(1) 現地踏査結果(地質構造解析)



Joint-2(J2): N13E81SE

◆ 0.2~0.6m間隔で発達

◆ **流れ盤の高角節理**

◆ 褐色酸化した細粒分(平均厚さ1~5mm程度)を特徴的に伴う

◆ Joint-1(J1)とほぼ直交し、節理に規制された柱状岩盤を形成する。

◆ **崩壊発生時には背後分離面(背もたれ)となったものと推定される。**

